

# 本格化する米主要企業の決算発表のポイント



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① 米企業決算への市場の期待は低い

米インフレ加速やそれに伴うFRB（米連邦準備制度理事会）の積極的な利上げを背景に、22年はS&P500種株価指数が年間で19.4%下落するなど波乱の展開となりました。ただ23年に入り、同指数は4.2%上昇（1月13日現在）し、ハイテク株主体のNASDAQ100は1月13日までに2021年10～11月の10日続伸以来となる6日続伸となるなど、米国株を見直す動きが強まっています。

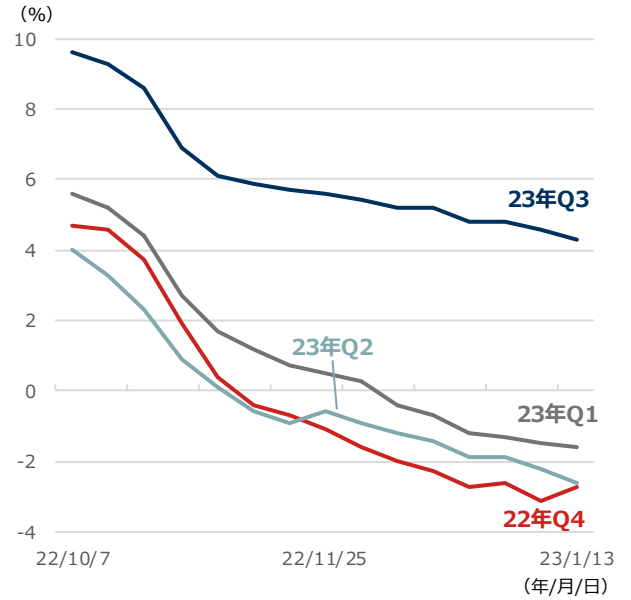
こうしたなか、米国株の先行きを占う上でカギを握る米企業の決算発表が本格化します。22年10-12月期のS&P500企業の予想EPS成長率は1月13日時点で前年同期比2.7%減となっています。同予想EPS成長率は、10月以降、下方修正が目立つなど（右上図）、米企業決算への市場の期待は低いといえます。米企業決算は直近まで10四半期連続で事前予想を上回る結果となっており、今回こうした動きとなるかが焦点となります。

## ポイント② ハイテク株の業績動向が焦点に

今回発表される22年10-12月期のS&P500企業のEPS成長率を業種別にみると、エネルギーなど5業種が前年同期比で増益予想となっている一方、情報技術や通信サービスなど指数寄与度の高いハイテク業種を中心に6業種が同減益予想となっています（右下図）。ハイテク株の業績不振が全体の業績を下押しする構図といえます。

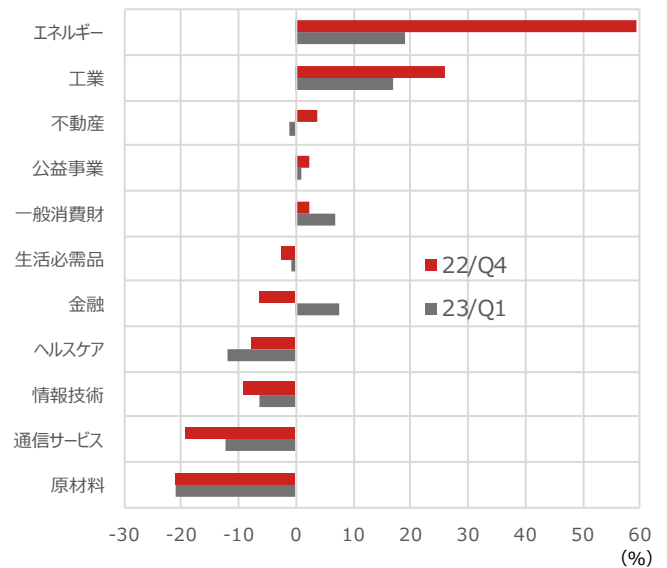
もっとも、23年1-3月期のEPS成長率をみると、現時点では情報技術や通信サービスの同減益率が縮小するとみられており、ハイテク株の業績は最悪期を脱する可能性があります。その意味では今回の決算発表で経営者が先行きに対してどのような見通しを示すかがポイントといえます。

### S&P500企業のEPS（1株当たり利益）成長率予想



期間：2022年10月7日～2023年1月13日、週次  
 ・2022年Q4（10-12月期）～2023年Q3（7-9月期）のEPS成長率が対象  
 ・EPS成長率は前年同期比  
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

### S&P500企業の業種別のEPS成長率予想



期間：2022年Q4（10-12月期）～2023年Q1（1-3月期）  
 ・EPS成長率は前年同期比  
 ・予想は2023年1月13日時点のBloomberg予想  
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。